群教セ	F08 － 01
	平 28.261 集
	生徒指導

お互いのよさを認め合い、自己有用感を高めるための学級経営の工夫

――シンキングツールを活用した話合い活動の工夫を通して――

特別研修員　小山　千文

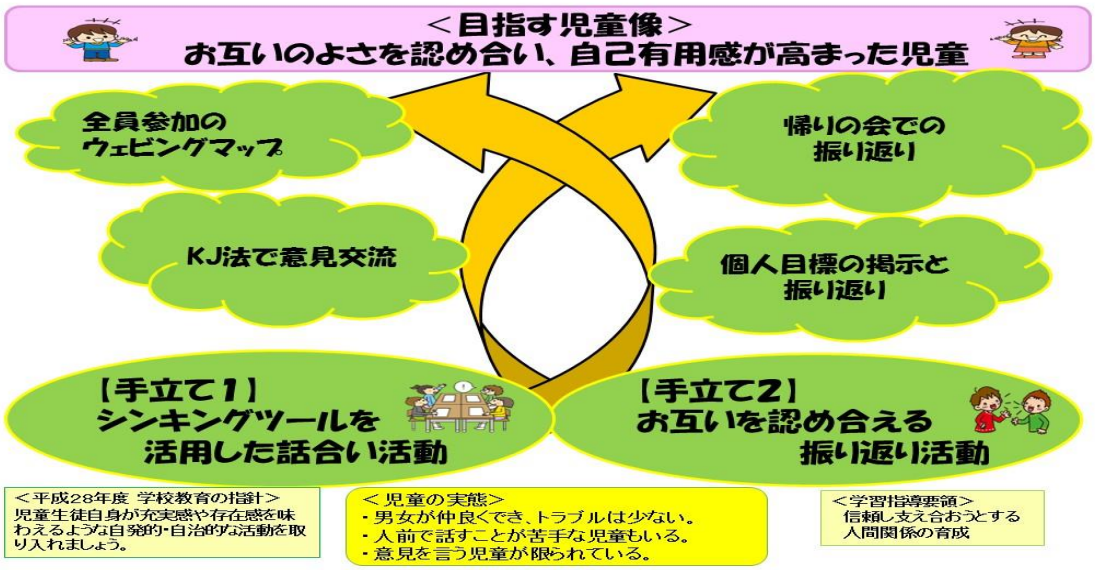
Ⅰ　研究テーマ設定の理由

群馬県教育委員会発行の平成 28 年度学校教育の指針では、いじめの未然防止に向けた望ましい人間関係づくりを進める取組として、「自己有用感をはぐくむ教育活動の充実」を挙げている。

本学級の児童の多くは学校生活全般に真面目に取り組み、集中して学習できる。しかし、自らの考えや思いを発表する際は、特定の児童に発言が偏る傾向がある。この傾向は、自分の考えに自信が持てないことや、友達と違う意見を言ってしまうと、友人関係が不安定になってしまうのではないかという不安があることが要因であると考えられる。また、学校生活全般において、教師が指示したことに対しては素直に取り組める児童が多いが、自発的・自主的に行動できる児童は少ない。このことも、自分に自信がないために、自分が思ったことを行動に移すことに不安があるからだと考えらえる。こうした児童の実態を変容させるためには、一人一人の児童が自信を持って学校生活を送ることができるようにする必要がある。そのためには、お互いを認め合い、一人一人の自己有用感を高めることが大切であると考える。そこで、話合い活動においてシンキングツールを活用することにより、全員参加の話合い活動を実現し、抵抗感なく自らの考えや思いを伝え合う場を設け、一人一人が自信を持って自らの考えや思いを表現できるようにしたいと考えた。そして、そのことにより、学級の一員としての自覚が深まり、学級の様々な課題について話し合うことで、お互いを認め合うことができると考えた。このように、シンキングツールを活用した全員参加の話合い活動を工夫することで、一人一人の考えや思いを大切にしながらよさを認め合い、一人一人の自己有用感を高めることができると考え、上記のとおりテーマを設定した。

Ⅱ　研究内容

１　研究構想図



２　授業改善に向けた手立て

授業中の話合い活動の場面で、シンキングツールの活用を工夫し、自分の考えを全体の前で話すことが苦手な児童でも、話合いに参加して自分の考えを表現することができるようにしたいと考えた。自分の考えを持ち、友達と伝え合う経験を繰り返すことにより、集団の中での自分の存在を意識し、集団の一員としての意識を高めることができると考えた。全員参加の話合いにするための工夫として、事前に自分の考えをウェビングマップに書き込むことにより、話すことが苦手な児童も考えを表現できるようにした。さらに、グループでの話合いの際も、一枚のウェビングマップに皆で一緒に各自の考えを自由に書き込んだり、KJ 法を取り入れたりすることで、自分自身の考えを表現しやすくしたり、お互いの考えの共通点や相違点を見付けたりできるようにしようと考えた。このように、お互いの考えを伝え合い、認め合うための話合い活動に継続して取り組むことで、一人一人が自信を持って自らの考えや思いを表現できるようにしたいと考えた。そして、そのことにより、学級の一員としての自覚が深まり、お互いの考えの共通点や相違点を見付けることで、お互いを認め合うことができると考えた。これらのことから、シンキングツールを活用した全員参加の話合い活動を工夫することで、児童同士が本音で交流できるようになり、お互いのよさを認め合い、一人一人の自己有用感を高めることができると考えた。

手立て１　シンキングツールを活用した話合い活動の工夫
・ウェビングマップに記入して自分の考えを表現したり、KJ法を用いて自分の考えを伝えたりする活動を取り入れることで、一人一人が自信を持って自らの考えや思いを表現できるようにする。
手立て２　お互いのよさを認め合う活動の工夫
・グループの話合いで使ったワークシートを教室に掲示し、多様な考えに触れる機会を設ける。
・帰りの会の中に、友達の良いところや頑張っているところを見付け合う活動を取り入れる。
・学級会で集団決定した事柄について、学級全体で取り組めているかどうかを確かめるための掲示物を作成する。

Ⅲ　研究のまとめ

１　成果

○　グループでの話合いの前に、自分の考えをウェビングマップに書き込むことにより、話すことが苦手な児童も自分の考えや思いを表現できるようになった。グループでの話合いの際に、一枚のウェビングマップに皆で一緒に各自の考えを自由に書き込んだり、KJ 法を取り入れたりすることで、自分自身の考えを表現しやすくなり、お互いの考えの共通点や相違点を見付けることができた。

○　話合い活動に継続して取り組むことで、一人一人が自信を持って話合いに参加できるようになり、お互いの考えを伝え合い、認め合う様子が見られるようになった。

○　帰りの会では、学級代表の児童が「今日のクラスの様子はリンゴですか？（学級の目標が達成できたらリンゴの形のカードを掲示物に貼れる）」と学級全体に呼びかけて確認するようになり、自発的・自治的な学級に育ってきている様子が見られるようになった。また、自主的に学級会を開いて学級レクについての話合いも行った。

２　課題

○　自己有用感の高まりを、一人一人の児童が自覚できるような手立てをさらに工夫する必要がある。

○　自由に意見を伝え合う話合い活動の際は、多様な考えが出されるため、教師が話合いの視点を明確に示しておく必要がある。

実践例

１　議題名　　「より良い学級とはどんな学級なのか話し合おう」（第６学年・２学期）

２　本題材について

学級会での議題について、一人一人が切実に自己の課題として捉えて主体的に話し合うことができるように、議題ポストを設置して児童の意見の中から学級会の議題を取り上げる。また、自分の考えを全体の前で話すことが苦手な児童でも､話合いに参加して自分の考えを表現することができるようにするために、事前に議題に対するイメージをウェビングマップに記入する活動を取り入れる。議題に対して思いつくことを小グループごとにウェビングマップやKJ法を使って話し合うことで､お互いの考えの共通点や相違点が目に見えるようにし、各自の考えを活かして、グループの考えを深めることができるようにする。

お互いのよさを認め合い、自己有用感を高めるための工夫として、掲示物やワークシートを活用した振り返り活動を取り入れる。また、話合いで決まったより良い学級の実現に向けて、学級全体で取り組めたかどうかを帰りの会で確認し、木の絵の掲示物にリンゴの形のカードを貼るという活動を取り入れる。さらに、個人の行動目標を設定し、友達と伝え合い、励まし合う場を設け、行動目標を達成できたら、ワークシートにシールを貼ったり、友達の行動の良かった点を見付けたら、木の葉の形のカードに書いて、教室に掲示したりする。このような取組を通じて、児童が主体的に話合いに参加することができるようにするとともに、お互いを認め合い、一人一人の自己有用感を高めることができると考えた。

以上のような考えから、本題材では、以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	より良い学級とはどんな学級なのか話し合おう。	
評価規準	集団活動や生活への関心・意欲・態度	学級や学校の生活の充実と向上に関わる問題に関心を持ち、他の児童と協力して自主的に集団活動に取り組もうとしている。
	集団の一員としての思考・判断・実践	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために話し合い、自己の役割や責任、集団としてのより良い方法などについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。
	集団活動や生活についての知識・理解	みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの意義や、学級集団としての意見をまとめる話合い活動の効率的な進め方などについて理解している。
時間	主な内容	主な学習活動
事前の活動	問題の発見 議題の選定	・自分自身に関わることを、ウェビングマップに書き込む。（ワークシート①） ・KJ法を用いて、学級全体の様子で良いところと課題について小グループで話し合う。（ワークシート②） ・学級会で話し合いたい議題を議題ポストに入れる。（ワークシート③） ・学級代表委員を中心に議題を選ぶ。
本時の活動	問題の意識化 出し合う 比べ合う まとめる	・議題に関して思いつくことをグループごとにウェビングマップに書く。（ワークシート④） ・ウェビングマップに書いた内容を参考にして、課題の解決策についてKJ法を用いてグループで話し合う。（ワークシート⑤） ・ウェビングマップに書いたことを発表し合う。 ・各グループが想起した内容を全体で共有する。 ・より良い学級の姿を全体で話し合い、一つにまとめる。
事後の活動	実践	・個人目標を設定し、発表会を行う。（ワークシート⑥） ・帰りの会で、より良い学級の姿を意識して生活できたかを振り返り、達成できたらリンゴの形のカードを木の絵の掲示物に貼る。 ・頑張っている友達を見付けたら、帰りの会で紹介し、木の葉の形のカードに書いて、教室に掲示する。

３　本時及び具体化した手立てについて

本時は、指導計画の中の「出し合う」「比べ合う」「まとめる」時間に当たる。そこで、シンキングツールを使い、全員参加の話合い活動になるようにする。また、お互いのよさを認め合うことができるようにするために、事後の活動の中で、掲示物を利用した認め合いの場を設ける。

手立て１　シンキングツールを活用した話合い活動の工夫
・議題に対して思いつくことを小グループごとにウェビングマップやKJ法を使って話し合うことで、お互いの考えの共通点や相違点が目に見えるようにする。
手立て２　お互いのよさを認め合う活動の工夫
・話合いで決まったより良い学級の実現に向けて、学級全体で取り組めたかどうかを帰りの会で確認し、木の絵の掲示物にリンゴの形のカードを貼る。
・事後の活動で、個人の行動目標を設定し、友達と伝え合い、励まし合う場を設け、行動目標を達成できたら、ワークシートにシールを貼る。
・友達の行動の良かった点を見付けたら、木の葉の形のカードに書いて、教室に掲示する。

４　授業の実際

事前の活動で、ブレーンストーミングを用いて自分自身について振り返っておくことで、本時での話合いとのつながりを持たせた。

(1)　シンキングツールを活用したグループでの話合い活動の工夫

学級会の議題である「授業態度」に対して思いつくことを、グループで１枚のウェビングマップに自由に記入した。ウェビングマップへの記入は、各方向から自由に書き込むことができるため、それぞれが遠慮なく意見を書き込むことができた。「私はこう思う」「同じ意見だね」と声を掛け合って、意見を書き込む様子が見られた（図１）。また、関連する内容を線でつなぎながら、グループの意見を収束することができた（図２）。そして、各班から出された意見を書記係の児童が板書したことで、各班の意見を学級全体で共有することができた（図３）。全体で話し合う際の進行は、児童の司会進行係が行い、各グループの意見を聞いたり、学級全体に意見を求めたりするなど、自主的に進めることができていた。課題の解決策を考える際は、KJ法を使い、全員が付箋に自分の考えを記入することができ、多くの意見を出し合えていた。付箋を動かして同じ考えをまとめながら、グループの意見を考えることができた。

図１　ウェビングマップに各自の考えを記入

図２　ウェビングマップのワークシート

図３　学級全体のウェビングマップ

付箋に自分の考えを記入することで、人前で話すことが苦手な児童でも考えを伝えることができ、全員参加の話合になった（図４）。

図４　KJ 法で考えを交流

(2)　お互いのよさを認め合う活動

グループでの話合いの中で、意見を出し合いながら、「私も同じ」「それもいいね」など、お互いの考えの共通点や相違点について認め合い、笑顔で話し合う姿が見られた。シンキングツールを使ったことで、お互いの意見を目で見て確認することができるので、良いところを確認しながら、声を掛け合うことができていた（図５）。

授業の終末では、掲示物を利用した振り返り活動に取り組むことを伝えた。毎日の帰りの会で、掲示物を利用し、児童が自主的に学級全体の一日の様子を話し合うようになり、より良い学級を目指して頑張ろうという意欲を引き出すことができた（図６）。また、事後の活動では、個人目標の発表会を行い、目標を各自の椅子の背に張り付け、近くの席の友達とお互いの様子を確認し合えるようにした（図７）。その目標が達成できたら、シールを貼ることを楽しみにしている姿や、「今日はシールを貼って良いと思う？」などと近くの友達に自分から質問する様子も見られた。

図５　笑顔で話し合う様子

図６　木の絵の掲示物

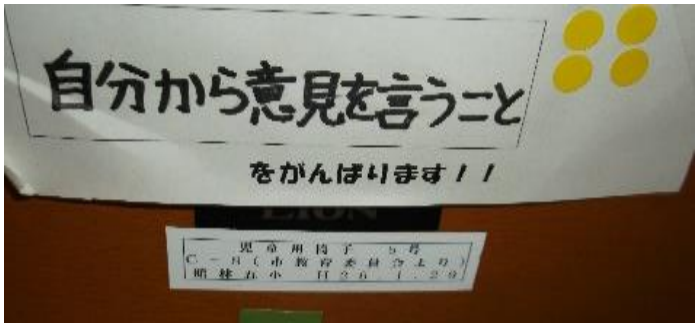


図７　椅子の背に貼った個人目標

５　考察

話合い活動において、シンキングツールを活用することにより、話すことが苦手な児童も自分の考えや思いを表現できるようになり、全員参加の話合い活動が実現した。事前にグループで話し合う際も、一枚のウェビングマップに皆で一緒に自分の考えを自由に書き込んだり、KJ 法を取り入れたりすることで、自分の考えを表現しやすくなったり、お互いの考えの共通点や相違点を見付けたりすることができるようになった。お互いの考えを伝え合い、認め合うための話合い活動に継続して取り組んだことにより、自分の考えや思いを伝え合うことへの抵抗感が少なくなり、一人一人が自信を持って自らを表現できるようになった。そのことで、それぞれの児童の学級の一員としての自覚が深まり、自主的な学級会の開催につながった。３学期に行った「６年生を送る会」についての学級会では、児童からの提案で、小グループに分かれて KJ 法を使った話合いをし、出し物についての意見を話し合うことができた。

振り返り活動においては、担任が授業の終末で掲示物を紹介した。その後、学級代表の児童が中心となり、毎日の帰りの会で学級の一日の様子を自主的に振り返るようになった。また、一人一人が頑張ることを考え、椅子に個人目標を貼り、自己や友達同士の振り返りに活用できるようになった。このように、シンキングツールを活用した話合い活動の工夫と、お互いのよさを認め合う振り返り活動の工夫を通して、自信を持って自分の考えや思いを表現することのできる児童が増え、お互いの意見を認め合ったことで、集団としての絆が深まり、一人一人の自己有用感を高めることにつながったと考える。